

政

府部門B/S改革プロジェクト・チーム

座長 渡辺 正太郎 (副代表幹事・専務理事)

府部門B/S改革プロジェクト・チーム

概要

政府の「貸借対照表 (B/S)」について、「官から民へ」の観点に基づき議論した。その実情の分析と、縮小を目指す改革の方向性を提言として、3月に発表した。

副座長 (委員23名)

- ・ 梶川 融
(太陽ASG監査法人 総括代表社員)
- ・ 小出 寛治
(NTTリース 取締役社長)
- ・ 富田 哲郎
(東日本旅客鉄道 常務取締役)

(役職は3月23日現在)

(インタビューは4月5日に実施)

バランスシートの構造改革を民間は行った。次は政府だ。



渡辺 正太郎

わたなべ・しょうたろう

1960年早稲田大学第一商学部卒業、同年花王石鹼株式会社入社。74年取締役、78年常務取締役、81年専務取締役 (85年花王株式会社と改称)、88年取締役副社長、2000~2002年6月経営諮問委員会特別顧問、2002年より伊勢丹社外取締役、2003年よりりそなホールディングス社外取締役。

84年経済同友会入会。85年幹事、2001年副代表幹事、2002年副代表幹事・専務理事に就任。97~98年度労働市場委員会委員長、99~2000年度行政委員会委員長、2002年度組織活性化委員会委員長、企画委員会委員長、2002~2005年度広報委員会委員長、2005年度府部門B/S改革プロジェクト・チーム座長。

バランスシートを見る限り
構造改革の成果は出ていない

小泉政権が誕生した5年前、日本はデフレ経済下で、グローバル化の波に襲われており、しかも景気下支えのために、90年代を通じて膨大な財政支出がなされました。もっと遡れば、戦後60年の国づくりの積み重ねは、政府自らが、生活行政から金融、厚生に至るまで、大きな事業をやってきました。その結果、大きな政府と大きな借金ができあがりました。

こうした時代背景で、小泉構造改革が始まるのです。その目指す方向は、①プライマリー・バランスを黒字化させる、②政府の仕事を簡素にする、要するに公務員改革、③政府が抱え込んだ融資・財産を有効な形で市場に出す、の3点だと認識しています。金利上昇、国債暴落のリスクが目前にある今、政府はお金も資産もホールド

しないという姿勢を鮮明にすることで、危機を回避する必要があります。

ところが、未だに財産も借入れも増えており、構造改革に手をつけたものの、バランスシートを見る限り、その成果はまだ上がりません。景気回復による税収増などでプライマリー・バランスは多少改善したものの、まだ大赤字で、バランスシート上の債務は増え続けます。バランスシートこそが、構造改革が真に効果を上げたかどうかを量る、最大の指標です。

B/S縮小を目指し提案した
政府は必死にやってほしい

今回の提言は、「バランスシートを小さくする」ための方策を、民間経営者的感覚から大胆に提案しました。例えば、既に民営化された国の事業は「今の財政状況を考えればすべての株式を売却して

いいのではないかと考えますし、資産は「価値に見合ったコスト認識を持って使うべき」と訴えています。

経済同友会は、他にも、税方式による「新基礎年金」の導入や「財政健全化法 (仮称)」の制定など、改革の提言を多数行っています。それらの改革を進めれば、結果はバランスシートの改善、縮小となって表れるはずですが。

民間企業のこの10年を振り返ると、デフレに克つためのイノベーションとコスト削減、そして資産を見直すことで、バランスシートの構造改革に取り組んできたわけですが。次は、政府がそれを行う番です。この先の日本のありようは、次期政権の取り組みも含め、ここ何年かの構造改革の進捗しだいですが。その意味で、バランスシートの監視を怠ってはいけません。郵政も、道路も、政策金融も、改革の行方はバランスシートに映し出されます。メディアもこうした問題意識を強く持ってほしいと思います。政府は、とにかく必死で取り組んでほしい。

※提言は15~16ページに掲載。